

2019年6月19日(水) 18:30~21:00

会場：大阪市立大学文化交流センター(大阪駅前第2ビル6階)
主催：大阪市立大学大学院 都市経営研究科都市政策・地域経済

GSUM

Graduate School of Urban Management

SUMMER
SYMPOSIUM

特別シンポジウム

公立図書館と
地域社会の絆 part2

甲州市 | 瀬戸内市

パネリスト

古屋美智留[甲州市立勝沼図書館:司書]

嶋田 学 [瀬戸内市民図書館もみわ広場:

奈良大学文学部 教授(司書課程) 瀬戸内市民図書館 元館長

樹下 康治[京都市西京区副区長]

統括 永田 潤子[大阪市立大学都市経営研究科教授]

コーディネーター 遠藤 尚秀[大阪市立大学都市経営研究科教授]



公立図書館と地域社会の絆 part2

ー甲州市/瀬戸内市の現状と今後の取組み・図書館サービスの変遷と地域との係り

昨年度に続き、「地域における知の拠点」であるとともに、地域文化の継承、地域住民等の出会いの場の提供を通じて地域社会のニーズを汲み取り、地域価値創造に邁進されている公立図書館(2自治体)関係者と有識者(1自治体)を講師としてお招きしました。

「市町村立図書館は、知識基盤社会における知識・情報の重要性を踏まえ、資料や情報の提供等の利用者及び住民に対する直接的なサービスの実施や、読書活動の振興を担う機関として、また、地域の情報拠点として、利用者及び住民の要望や社会の要請に応え、地域の実情に即した運営に努めるものとする」「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(第一総則三運営の基本 2))とされています。

公立図書館の運営には自治体の直営のみならず指定管理者制度の活用もありますが、下記の疑問をベースに、2自治体の具体的な取組みや公共図書館における今日的課題への対応について、講師の皆さまからお話いただき、会場の皆さまと意見交換を行って参ります。

- ・市としてどのような視点から、地域社会を巻き込んで公立図書館を運営されているのか？
 - ・公立図書館サービスを通じて、地域社会を具体的にどのように変えようとしているのか？
- 是非、当シンポジウムへのご参加をよろしくお願い致します。

プログラム

◇日時

2019年6月19日(水)

18:30～18:40	ご挨拶	:永田 潤子(統括) 遠藤 尚秀(コーディネーター)
18:45～19:20	甲州市立勝沼図書館の取組み	:古屋美智留氏
19:20～19:55	瀬戸内市民図書館の取組み	:嶋田 学 氏
19:55～20:05	(休憩)	
20:05～20:40	図書館サービスの変遷と地域との係り	:樹下 康治氏
20:40～21:00	パネルディスカッション、質疑応答	

◇会場:大阪駅前第2ビル 6階

大阪市立大学文化交流センター

<http://www.gsum.osaka-cu.ac.jp/access.html>

◇参加料:無料 定員:120名程度(当日受付)

パネリスト

古屋 美智留

平成7年、甲州市役所入庁。教育委員会教育総務課を経て、平成23年度から生涯学習課に勤務。勝沼図書館の特徴として、開館以来20年以上、地域の歴史・文化・産業「ぶどうとワイン」に関する資料収集と地域研究、「ぶどうとワインの資料展」を毎年実施。

嶋田 学

1987年大阪府豊中市立図書館勤務。複数の図書館に勤め2016年度から3年間、瀬戸内市民図書館館長に就任。2019年度に奈良大学文学部文化財学科教授に就任。市民協働による地域活性化を促す公共図書館経営論等について研究。

樹下 康治

大阪市立大学大学院創造都市研究科にて、公共図書館における業務の変遷や運営形態(直営・指定管理等)による課題等を研究。その成果は「公共図書館の運営形態による今日的課題への対応に関する考察」として高く評価。